

川崎・横浜・相模原

ものづくり

神奈川の製造業を応援&魅力を伝える



btob@kanagawa-np.co.jp

●自分のオフィスが持てる
さがみはら産業創造センター(相模原市緑区西橋本5の4の21)は、仕事に必要なスペースを貸し出す「デスク・テン」入居者を募集する。創業準備中や創業間もない人、固定費を抑えたい企業などが対象。セカンドオフィスとしても活用できる。必要なデスク、別料金でコピーやファクスなども利用可。有料で同社スタッフによる創業支援も受けられる。シンプルプラン月額1万6800円から。☎042(770)9119。



●営業所を横浜市内に移転
計測機器メーカー、チノー(東京都板橋区)は、川崎市内にあった営業所を横浜クリエーションスクエア(横浜市神奈川区栄町5の1)に移転した。通信技術に強みを持つ子会社のアズ本社と同じビル内に移すことで、両社の技術を融合した計測機器開発の新事業拠点として位置づける。横浜営業所☎045(440)3171。

●県内企業の紹介誌
東京商工リサーチ横浜支店は、収益力の高い県内企業を紹介した冊子「激アツ!かながわ」を発刊した。自社のデータベースを活用し、昨年1~12月決算での上位企業などを掲載。16日から有隣堂、住吉書房、八重洲ブックセンター京急百貨店上大岡店で店頭販売する。1500円。

●三浦半島ブランドで創業
県、県中小企業団体中央会などは、「地域資源を生かした食の創業を考えるフォーラム」を28日午後1時半から、横須賀商工会議所多目的ホールで開く。「食の三浦半島ブランドで創業」と題した基調講演、公的機関による創業支援制度を紹介する「あなたの創業を応援する! 力強い味方の活用方法」など。無料。県横須賀三浦地域県政総合センター商工観光課☎046(823)0433。

企業間取引向けにビジネスチャンスの発掘や販路拡大、マッチングなどに役立つ情報を掲載します。情報は上記アドレスあて電子メールか、郵便番号231-8445(住所不要)神奈川新聞社編集局経済部「BtoB情報交差点」係まで郵送でお寄せください。

横浜の「今と未来」の経済誌
ベイサイドプレス
明日17日、第10号発行!

優秀賞—第66回かわさき起業家オーディション(2010年7月)

逆風下の将来展望

県内中小企業のトップが語る

仕事が好き

就職説明会を真夏に行っている。学生にどんな仕事をやってみたいかを問うと「研究開発」。そこに大切な「好きなこと」があるかと聞くと、意外なことに「ない」という。以前、取引のあった大手の即席めんメーカー。開発部門の新人社員と課長と「どこの店がうまいか」の話になる。自分が誰よりも早く見つけ出し、食べていることを誇りにしていた。トップから若い社員に至るまで、会社が一休となって世界一おいしいラーメン作りに熱中している。



町)野田泰三社長

1832年創業の老舗企業。情報産業や化粧品など使われ

製造業の先行きに不安を感じなくはない。リーマン・ショックだけでなく、いつの時も先が読めないのは確か。その中でも流通やアパレル業界には元気な会社もある。なぜそこから勉強しないのか。最近、赤字の原因を世の中や景気のせい、他人のせいにする経営者が少なくない。だが、赤字になるのは努力不足にほかならない。そんな甘い考えを持った経営者は生き残っていけないだろう。会社が不振になったら、まずは足元を徹底的に見直すべきだ。



◆ニッセイエコ(藤沢市) 稲村道雄会長 ディップや射出、押し出し成形などを手掛ける。

1970年の創業以来、赤字決算は一度もない。

◆セフリカNODA(愛川) 製造業の海外シフトはますます進んでいる。危機だと感じるべきではあるが、避けられない傾向だろう。日本のものづくり産業は従来、高い技術力を武器に付加価値の高い商品を生産して提供してきた。だが、メモリーや液晶などが価格競争に陥ったように、その価値が薄らいでいる。

こんな時代だからこそ、原点に戻り、愚直なまでに、ものづくりへの真摯な姿勢を保ち続けることが必要なのではないか。製造業の本質そのものだ。奇策はない。製造業復権の鍵は「新価値創造」。ものづくりの上流である開発から、組み立てなど下流まで当事者能力を発揮し

奇策はない



ア。リーマン・ショック後も黒字を確保している。

景気は回復局面にあるものの、製造業を下支えする中小企業を取り巻く環境はいまだ厳しい。高い技術力で世界をリードしてきた国内のものづくり産業の将来展望は、復権へ向けた秘策はあるのか。県内で存在感を示す高収益企業3社の経営者に、それぞれの思いを語ってもらった。

(千葉 龍太)

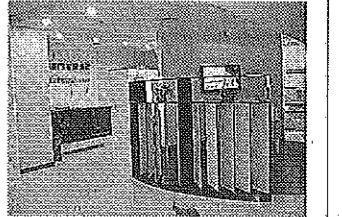
足元見直す

補助金の活用は延命措置にすぎず、自然治癒力を損なう。補助金は強い会社をより強くして、雇用などを創出するために使うものだ。当社の売上高は10年前の4倍。特別なことをしてきたわけではなく、頼らず努力してきただけだ。

■省エネ性能の多機能健康壁で海外展開
日々の暮らしの中で、家屋内の空気的重要性を気にかけてことがあるだろうか。汚れた空気はシックハウス、アレルギーなど病気の原因と指摘される。家屋の気密性が高まるにつれて室内の湿度の適切な自然換気によるコントロールが困難となっている。

ワンウィル(横浜市中区、代表・山本倍章氏)は水分の吸収性能が高い珪藻土(けいそうど)と自然素材のしっくい等を自社開発した手法で固化させることで、従来にない家屋内の空気環境を改善する多機能壁を開発。①冷暖房代を節約できる省エネ壁材②抗菌・消臭機能で快適に暮らせる壁材③ダニ・カビの繁殖を抑える調湿機能を備えた壁材として業界内で注目を集めている。

これらの特徴を生かし、ここ数年は国内市場に限らず、海外市場も視野に事業を展開。2007年、横浜企業経営支援財団が募集し、上海市で開かれた「中国国際工業博覧会」に出展した。



その後も精力的に中国出張を重ね、中国ビジネスに不可欠な要素の「人脈形成」に注力。2009年11月、福建省廈門(アモイ)市に生産拠点およびショールームを有した現地法人・大一志建材(廈門)有限公を設立した。さらに広東省珠海市の企業とも販売代理店契約を締結し、10年7月、展示ショールームを開設した。

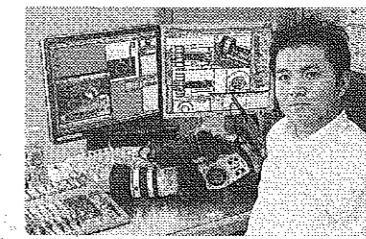
「健康」や、省エネなど「環境」意識が芽生え始めた中国市場へ本格参入するため、今後も中国沿岸地域を中心に販売代理店のパートナーを拡張していく予定である。

ワンウィル 〒231-0014、横浜市中区常盤町1の2、関内SEビル9階。☎045(664)3330、ファクス045(664)5210。電子メールはbaisho.y@onewill.co.jp URLはhttp://www.keisoukun.com (情報提供・横浜企業経営支援財団)



■「易化学」技術伝承・作業マニュアル
易化とは、「物事をやさしくする」という意味だそう。フィールイメージ(広島市安芸区)は、易化学、で技能伝承サポートビジネスを展開している。

マツダで技能五輪に出場した経験を持つ小林健一社長一写真一が、派遣社員、期間工など経験の異なる社員が混在する製造現場で、作業手順を「誰もが理解し、実践できるように」と、編み出したのが「易化学」である。



動画やアニメーションによる「誰でも見れば理解できる作業マニュアル」をプロデュースし、これまで自動車メーカー、化学メーカー等に導入され、教育期間の短縮、コストの削減に効果を発揮している。

製造現場以外でも活用が広がり、易化学を駆使して制作された化学の補助教材は「分かりやすい」と大学生の間で評判になっているという。